

第24回地域福祉実践研究セミナー IN 愛知・半田 ワークショップ 第5分科会 報告

(テーマ) 「0-100の地域ケア」を目指す地域づくり
～空き家対策・居住支援の実践から考える～

実践報告者 池脇啓太さん（亀崎空き家再生プロジェクト委員）

岡崎一郎さん（UR都市機構 ウェルフェア推進課）

アドバイザー 吉村輝彦さん（日本福祉大学 国際観光開発学部

宮城 孝（法政大学現代福祉学部 日本地域福祉所）

地域担当者（ファシリテーター） 對馬清美 半田市地域包括支援センター

参加者状況

1. ワークショップ会場名

アイプラザ半田2階研修室

2. 参加者人数（スタッフ除く）と内訳

26名（内訳）

社会福祉協議会 11名

特養・事業所等 5名

NPO・一般社団法人 3名

大学教員 2名 学生 5名

目 的

地域包括ケアを推進する上で、住まいの支援を含めた「地域づくり」はその根幹をなします。その一方、障がいのある方や高齢者の生活の場に関する課題が多く存在します。

本分科会では、「住まい」の課題について、住居そのものを住みやすくするハード面と身元保証や見守り活動といったソフト面の支援を切り口に、今後のあり方について議論します。

展 開 方 法（午前の部）

■ グループ（5グループ）ごとに自己紹介・
アイスブレイク

■ 実践報告① 池脇啓太氏

半田市の亀崎地区における空き家再生プロジェクトによる空き家の再生を通じたまちづくり実践（外部からの刺激、関係人口の増加、潮干祭りの継承）

半田市の取り組み状況報告

高齢介護課 池尻氏 建築課 中村氏

市営住宅における20%の空き室の利活用
公営住宅における地域包括ケアの取り組み

実践報告② UR都市機構 ウェルフェア推進課

岡崎一郎氏 多様な世代が生き生きと暮らし続

けれる住まい・まちを目指して

地域医療福祉拠点化（全国・愛知県の事例）

展開方法（午後の部）

アドバイザーによる論点整理

吉村輝彦氏（日本福祉大学 国際福祉開発学科）

UR朝倉団地 ハードだけでなくつながりの再構築を目指した取り組み

宮城 孝氏（法政大学 日本福祉研究所副理事長）

83歳の独居女性 福岡市社会福祉協議会のずーと
安心安らか事業（転居支援、死後委任事務）の事例

課題出しを黄色の付箋 アイデアをピンクの付箋



2018/09/01 14:19



2018/09/01 16:30

結 果

(居住環境をめぐる課題)

- 超高齢化、人口減少時代にあって、住宅環境をめぐる課題は、狭さ、バリア、空き家問題、コミュニティの希薄化、買い物や交通の利便性など、地域ごとにハード・ソフトにわたって、多様で多くの課題が存在する。
- その一方で、住宅確保困難者が増加しており、身元保証、家賃保証、見守り、社会参加など地域のつながりの再構築を目指した実践が必要となっている。

考 察

- コミュニティソーシャルワーク実践として、地域の居住をめぐる課題について、個別事例の集約化や量的な把握など「ニーズの見える化」が求められる。
- その際、既存の地域福祉関係者だけでなく、若者や働き盛り世代のまちづくりに関する意見や参加を通して、多世代共生の地域づくりを目指すべきである。
- 居住支援の公的な仕組みが、まだ未整備の状況において、各地域で、居住支援に関するオーナー、不動産会社、UR、地域包括支援センター、相談支援事業所、社協、社会福祉法人、NPOなどの民間レベルの連携の強化(相互理解、課題の共有化)とパワーアップが求められる。

今後の展望

- 居住支援に取り組む、全国80の居住支援法人や各種の団体機関の実践の検証、普及・啓発に向けたネットワークが必要。
- 日本地域福祉研究所 12月22日（土）大正大学
セミナー（仮）「居住支援とコミュニティソーシャルワーク実践」開催（居住支援協議会、居住支援法人の先進事例）
（P. S）知多半島版 日福大生（山田君）の地域密着性を活かした「僕と大家さん」物語の普及を期待。

最後に感謝を込めて **半田市の福祉の人材(ヒト)が**

万と咲く(曼珠沙華)